

## 三浦半島におけるキクガシラコウモリ 属の群の変動について

寺 島 浩 一\*

キクガシラコウモリ属 *Rhinolophus* は日本ではキクガシラコウモリ *R. ferrum-equinum nippon* TEMMINCK とコキクガシラコウモリ *R. cornutus cornutus* TEMMINCK の2種が記録されているが、三浦半島にもこの2種が棲息している。この両種の観察例から群の変動についてここにまとめた。本文を書くに当って資料を提供され又種々のご教示を載いた金田平、木暮市郎、柴田敏隆、伊藤洋一、伊達睦、小粥康治、Lars Wallin の各氏に対して厚く感謝の意を表する。

**生活環境** キクガシラコウモリは鎌倉北部の石切場跡（散在池、明月院、宅間谷）の各洞窟、三崎附近の海食洞、鎌倉のヤグラ跡などに、コキクガシラコウモリは前記の石切場跡の各洞窟や防空壕跡などに棲息する。特に両種とも石切場跡には多いようである。両種及びユビナガコウモリ *Miniopterus schreibersii japoniae* THOMAS が同一の洞窟に同時にいる場合があるが、種類によりとまり場所を異にするのが普通である。しかし人為その他によって一方の生活がおびやかされるような場合には混棲することもある。

キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ両種の生活要求は多少異なるらしく、一般にコキクガシラコウモリの方がやや高温多湿を好むようである。

**群の変動** 鎌倉における1958・1959両年の両種の個体数の変動は、キクガシラコウモリは Table 1 にコキクガシラコウモリは Table 2 にそれぞれ示した。

キクガシラコウモリは一般に少いが、冬期に1～35頭の群をつくり、夏期には非常に少くなる。コキクガシラコウモリは前種と逆に夏期に個体数が増大し、冬期にはほとんど見られなくなる。春期には1～15頭の小群をつくり各洞窟に分散している。

**考 察** コウモリの群の個体数の増減・群の構成の変化についての原因是、交尾・出産・生長・採餌・冬眠など生活形態の変化とそれにともなう移動によるものと考えられる。この観点から両種の群の構成、個体数の変動を検討してみたい。

キクガシラコウモリは冬期に多いが、一つの洞窟に35頭も集っている場合と1～数頭ずついくつかの洞窟に分散している場合がある。どちらの場合でも雌雄共に見られ、特に刺激をあたえないかぎり体温が下り睡眠中の状態で見られるので冬眠中のものと見てよいのではないかと思われる。夏期には観察される数は少ないが、1959年6月25日に記録された1♀は1児を腹につけていたので、分娩期は6月初旬となるものらしい、しかしこの地域では他に観察例がないので、分娩のための集団をつくるものがあるいは1頭ずつ分散して出産するものかわからない。秋期は交尾のための群をつくるのではないかと思われるが、この地域では見られない。以上のことから冬期はこの地域に来て冬眠の群をつくるが、他の季節には大部分は他所に移動するものらしい。

コキクガシラコウモリは冬期に見出されることはきわめてまれであるが4月ごろより1～数頭の小群が見られる。この期の群は雌雄ともに観察される。しかし5月から散在洞に500～1000頭の群が見られるようになる。この時調べた個体はすべて♀であり、6月下旬には1～2児を腹につけた個体が多く観察されるので、おそらく分娩・育児のための♀の集団をつくるものと思われる。この期の♀はこの地域ではまだ見られていないが、1959年6月27日沼津多比の洞窟で20頭ほどの♀のみの群を観察しているので、この期は雌雄別の性集団をつくるものらしい。又生れた児は出産後あるいは生長すると親の体からはなれて、幼獣のみの群をつくる。この時はほとんどの幼獣がまだ飛翔

\*横須賀市立馬堀中学校

出来ず、親が飛来して哺乳を行う。この群は当然生長と共に解消するものと思われ、8月20日の観察では成獣、幼獣の区別は見わけられなかった。その後は急速に個体数を減じ、秋期、冬期にはほとんど観察されないので交尾、冬眠は他地域に移動して行うものらしく、その群の形はわからない。

以上のことからコキクガシラコウモリは夏期に分婏のため群をつくり幼獣が生長すると又移動しさり、交尾、冬眠は他地域で行われるものらしい。

**結び** この地域では、キクガシラコウモリは冬期に冬眠のための群をつくり、コキクガシラコウモリは夏期に分婏育児のためおそらく早だけの群をつくるものらしい、したがってキクガシラコウモリは、交尾、分婏を、コキクガシラコウモリは交尾、冬眠を他地域で行ものらしいが、どのような移動をするか他地域ではどんな構成の群となるかわかつていい。このことを解明する一法として Lars Wallin 氏の用いている標識による Banding を計画し、出来るだけ広範囲にそれを行えるよう全国的に呼びかけ実行するのが今後の問題となっている。

Table 1 Population of *Rhinolophus ferrum-equinum nippon* 1958~1959

Date	C a v e						Estimate total Population
	M	S	ST	T	T.Y	The others	
<b>1958</b>							
Jon. 11	—	26	—	—	—	—	26
Jon. 18	—	—	—	—	—	1	1
Feb. 9	2(♀)	3(♀)	16(11♀ 4♂)	—	—	—	21
mar. 5	—	—	—	1(♀)	—	—	1
mar. 6	—	—	—	1(♂)	7(6♀ 1♂)	—	8
Apr. 8	0	—	—	1(♂)	—	—	1
Apr. 28	0	2(♀)	—	0	—	—	2
May. 25	—	1	—	—	—	—	1
Aug. 25	2	0	1	—	—	—	3
Nov. 23	7	7	35	—	—	—	49
Dec. 8	—	—	—	4	—	—	4
<b>1959</b>							
Jan. 8	1(♀)	—	—	—	—	—	1
Jan. 15	2	8	3	1	—	—	14
mar. 8	1	0	3(♀ ♂1)	—	—	—	
Jun. 25	2	0	—	0	—	—	2
Nov. 1	1	—	—	—	—	—	1
Nov. 14	3	7	—	2	6	—	18
Nov. 24	6	6	—	0	6	—	18

Explanatory notes	M.	— Meigetsuin cave
	S	— Sanzai cave
	S. T	— Sanzai-Tate cave
	T	— Takumagayatsu cave
	T. Y	— Takuma-Yoko cave

Table 2 Population of *Rhinolophus cornutus cornutus* 1958~1959

Date	C a v e							Estimate total population
	M.A	M	S	S T	T	K	The others	
<b>1958</b>								
Feb. 9	1(♀)	0	0	0	—	—	—	1
Apr. 8	10	0	—	—	0	12(7♀) (1♂)	1	23
Apr. 9	7(1♀)	0	—	—	4(1♀)	—	—	13
Apr. 28	4	0	0	—	0	14	—	28
May 10	1	—	—	—	—	—	—	1
May 14	—	—	200	0	—	—	—	200
May 25	—	—	500	—	—	—	—	500
May 31	—	—	300	0	—	—	—	300
Aug. 25	—	1	10	1	—	—	—	12
Dec. 26	1	0	—	—	—	—	—	1
<b>1959</b>								
Jun. 25	0	10	1500	—	30	—	—	1500
Aug. 20	—	—	500	—	—	—	—	500
Oct. 21	—	—	—	—	—	—	1	1
Nov. 1	—	—	2	—	—	—	—	2

Explanatory notes

M. A	—	Meigetsuin-A cave
M	—	Meigetsuin cave
S	—	Sanzai cave
S. T	—	Sanzai-Tate cave
T	—	Takumagayatsu cave
K	—	Kenchoji cave

### 参 考 文 献

- ALLEN, J. W. 1939 Bats. Cambridge: 368.  
 今泉吉典 1949 日本哺乳動物図説、洋々書房: 348  
 SHIBATA, T. and K. TERAJIMA 1958 Bat of Miura Peninsula, Japan. Sci. rep. Yokosuka City Museum. (3): 44~52.  
 寺島浩一 1958 鎌倉のコウモリ二種の観察、哺乳動物学雑誌 1 (5): 93~96.

### Résumé

On the increase and decrease of colonies of *Rhinolophidae*  
on the Miura Peninsula.

Koichi TERAJIMA\*

(With 1 Plate and 2 Tables.)

There are two species of horseshoe bats to be found in Japan, *Rhinolophus ferrum-equinum nippon* and *R. cornutus cornutus*; both of these occur on the Miura peninsula, their numbers increasing and decreasing seasonally.

The largest number of *R. ferrum-equinum nippon* is to be found in winter, when they apparently gather in colonies for hibernation. In summer hardly an individual is to be found.

On *R. cornutus cornutus* in summer the only individuals to be observed are females; and it is interesting to note that they are invariably with young. During this season male specimens disappear from the Miura Peninsula, but once 20 males were observed during the summer at Numazu. For this reason it is inferred that the males and females of *R. cornutus cornutus* form separate colonies in separate places during the summer season.

### Plate 9 の 説 明

- Fig. 1 散在池たて穴 (鎌倉) に於けるキクガシラコウモリの冬眠 Dec. 28, 1957  
Some *Rhinolophus ferrum-equinum nippon*, during hibernation at Sanzai Tate cave, Kamakura.
- Fig. 2 子供をかかえたキクガシラコウモリ June 25, 1959.  
A female of the *Rhinolophus ferrum-equinum nippon* and her young at Meigetsuin cave, Kamakura.
- Fig. 3 コキクガシラコウモリ♀と子供の群, ユビナガコウモリが混在している。June 25, 1959.  
A colony of females of *Rhinolophus cornutus cornutus* and their young: Among them are some *Miniopterus schreibersii japoniae* at Sanzai cave, Kamakura.
- Fig. 4 コキクガシラコウモリ♀の群 June 1, 1958.  
A colony of females of *Rhinolophus cornutus cornutus* at Sanzai cave, Kamakura.

---

\*Mabori Junior High School, Yokosuka.



Fig. 2

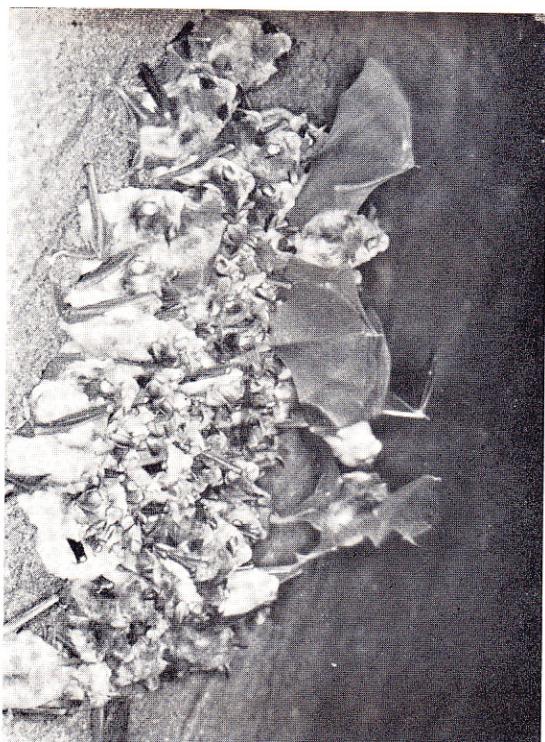


Fig. 4



Fig. 1



Fig. 3